

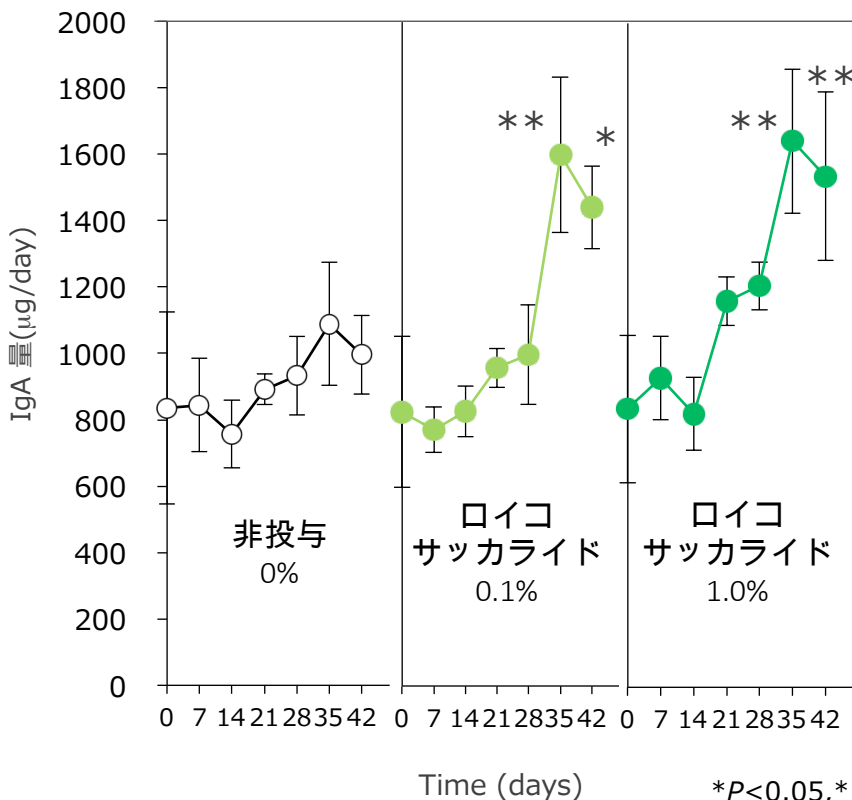
◆ ロイコ菌M048株の産生する菌体外多糖（ロイコサッカライド）摂取により糞便中IgA量が有意に増加

IgAはのど、鼻、腸管などの粘膜にあり、細菌などの侵入を阻止する生体防御成分です。IgAの分泌が増加すると、風邪やインフルエンザ等の感染症予防に役立つと考えられています。



ロイコサッカライド

エンドウマメから単離されたロイコ菌M048株は菌体外多糖（ロイコサッカライド）を多く産生することがわかり、このロイコサッカライドも菌体と同様にIgAの分泌を促進させることがわかりました。



マウスの飼育期間中、陰性対照群では糞便中IgA量に変化がなかったのに対して、ロイコサッカライドを含む餌を摂取させるとロイコ菌体同様に糞便中のIgA量が増加することがわかりました。

* $P < 0.05$, ** $P < 0.01$
vs. 陰性対照群

実験内容

- マウス：6週齢のBALB/c（雄）
- 群分け：
 - ロイコサッカライド0.1%群（ロイコサッカライドを餌に0.1%含有 n=4）
 - ロイコサッカライド1.0%群（ロイコサッカライドを餌に1.0%含有 n=4）
 - 陰性対照群（餌のみ n=4）
- 方法：ロイコサッカライド0.1%群、1.0%群それぞれはロイコサッカライドを0.1%、1.0%含む餌、陰性対照群は何も含まない餌を42日間、マウスに自由摂取させ、1週間毎に糞便中のIgA量を測定しました。